



至善館

SHIZENKAN

Graduate School of
Leadership and Innovation
Shizenkan University

22 世紀のビジネススクールを、ここ日本、そしてアジアから。

科学技術イノベーションとヒューマニティの持続可能性の両立、

そして、西洋の合理性と東洋の精神土壌の融合を目指し、

大学院大学至善館が日本橋に開学しました。

インドやヨーロッパをはじめとする世界の教育機関と連携し、

20 世紀を牽引した米国型ビジネススクールの教育パラダイムを革新。

高い志、卓越した創造力、優れた人格を兼ね備えた真のリーダーを輩出する

22 世紀の全人格リーダーシップ教育のあり方を、

日本から、そしてアジアから世界に提示します。



至善館は、過去24年間にわたり2,000人を超えるビジネスと社会のリーダーを輩出してきた全人格リーダーシップ教育機関アイ・エス・エルが母体となり誕生しました。20世紀資本主義の象徴である米国型ビジネススクールが育んできたプロフェッショナル教育を出発点としながらも、科学技術イノベーションの急速な進展と西洋近代の行き詰まりに向き合い、経営・リーダーシップ教育の22世紀パラダイムへの大胆な進化を目指します。定量的・論理的・戦略的思考といった物事を分析し検証する力を十分に取り入れながらも、ビジネススクールが不得意とする“未来を構想する力”を、近年世界で台頭するデザインスクールの思考アプローチ、Out-of-Boxの非連続な発想、そして、時代と世界の変化を俯瞰し本質的に洞察するためのリベラルアーツを取り入れることで補い、高次元で融合します。そして、リーダーシップの根源となる挑戦への意志、人と社会への思いと責任感を、アジアに伝統的に根付いてきた内省アプローチで育みます。

至善館の修士プログラムは、1学年80名(日本人・外国人が半数ずつ)の少数精鋭です。20歳代半ばから30歳代を主対象に、2か国語(日本語だけでも英語だけでも卒業可)で授業が行われ、平日夜間と週末を利用したキャリア継続型の20ヶ月のプログラムを提供します。学生は、ビジネス人材のみならず、パブリックや市民セクターからも積極的に受け入れ、クロスセクターでの相互触発と創発的協働を後押ししています。独自のプログラムを支えるファカルティ陣は、ビジネススクール、デザインスクール、科学技術イノベーション、リベラルアーツ、東洋思想、内省・コーチングなど、様々なバックグラウンドを持つ専任教員14名・兼任教員75名の計89名で構成され、海外からも教員を招聘します。授与する学位はMBA in Design and Leadership for Societal Innovation(経営修士[専門職])であり、20世紀型ビジネススクールを、22世紀に向けて大胆に進化させるという本学の大望とビジョンを反映しています。

至善館 概要

名 称 : 大学院大学至善館 (Graduate School of Leadership and Innovation, Shizenkan University)

学科・専攻名称/イノベーション経営学術院 (Department of Leadership and Innovation)
イノベーション経営専攻 (Major in Leadership and Innovation)

学 位 : 経営修士 [専門職] (Master of Business Administration in Design and Leadership for Societal Innovation)

開 校 : 2018 年 (平成 30 年) 8 月 20 日

所 在 地 : 東京都中央区日本橋二丁目 5 番 1 号 日本橋高島屋三井ビルディング 17 階

育成する 人材像

変革と創造に挑む全人格経営リーダーを輩出する

21世紀の経済社会を牽引する上で必要となるのは、人と社会が抱える諸課題に起業家精神をもって果敢に挑戦し、グローバリゼーションとイノベーションの大きな潮流と対峙しつつ、卓越した創造性と論理的・戦略的思考で未来を構想・検証し、実現にむけ人と組織を動かすスキルと器量をあわせ持つプロフェッショナルな経営人材です。そしてまた、そのような人材は、高い志、倫理観、パブリックマインドを持ち、社会全体の未来に対して、責任を負うリーダーでなくてはなりません。即ち、企(起)業家であり、社会の一員でもあり、何よりも人格を使い分けることなく、自らの使命を認識し、自らの責務を進んで引き受ける覚悟を持つ人材。本学は、そのような全人格的なリーダー人材を育成、輩出します。

6つの Key word

①リード・ザ・セルフ (Lead the Self)

すべてはたった一人からはじまる。他者からの期待や命令ではなく、自らの内なる声とアスピレーションによって突き動かされる自立と挑戦のリーダーシップを醸成します。

③イノベーション洞察と未来構想

未来は分析できない。科学技術イノベーションの指数関数的展開の中、世界と時代の潮流を鳥瞰し、変化の兆しを感じとり、「見えない」未来を構想できる、変革と創造に挑むプロフェッショナルとしての力を養います。

⑤人間の尊重

すべては人間のためにある。イノベーションと対峙し、それを梃子にしながらも、企業活動の根本にある目的を問い続け、ヒューマニティの持続可能性に貢献せんとするアスピレーションを育みます。

②全体俯瞰と統合

経営は諸機能に要素還元されない。機能別のスペシャリストではなく、事業や組織を全体俯瞰でき、経営の視点からすべての機能をホリスティックに統合して捉えうる経営者・起業家の視座・視点を修得します。

④全人格

人は社会の中でしか生きられない。人と社会と真剣に向き合うなかで、人格を使い分けることなく、プロフェッショナルであると同時に社会のリーダーとしての成長を促します。

⑥グローバル (Global と Local の統合)

アイデンティティの確立こそが多様性の受容を生む。世界を絶えず意識しながら、自身の拠って立つ基軸を確認することで、グローバルとローカルを結ぶ新たな価値を自ら定義する力を育みます。

教育 アプローチ

世界のビジネススクールの教育パラダイムを革新する

変革と創造に挑む全人格経営リーダーを輩出するために、本学は、最大のパートナー機関であるアイ・エス・エル(ISL)の全面協力を得、そのノウハウとネットワークを最大限に活用します。同時に、ヒューマニティを教育の中核に置くスペイン・バルセロナのIESE、インド・ゲルガオンのビジネススクール SOIL (School of Inspired Leadership)、中国本土のみならずアジア全域にネットワークを持つ新華僑団体の日本中華総商会、さらには、新しい教育パラダイムを志向する世界各地の有志や教育機関と緊密に連携しながら、22世紀のリーダーシップスクール像を先取りする教育プログラムと成長の場を提供します。

6つの Pedagogy

①経営政策 (Business Policy) への回帰

アカデミズムの影響で、アカウンティング、ファイナンス、マーケティング、戦略といった機能ごとに細分化されてしまったビジネス教育の現状を深く憂慮し、かつてのハーバードビジネススクールが持っていた経営政策を教育の中核に据えなおし、経営と起業の観点から統合したカリキュラムを提供します。

③リベラルアーツへの独自のフォーカス

リーダーシップ教育の真髄は、画家ゴッガンが私たちに提示した「自分たちはどこから来てどこへ行くのか、世界のなかで自分たちはどんな存在か」という問いかけにあります。本学は、歴史、宗教、社会学、哲学、芸術などのリベラルアーツを、世界にも類をみない独自のアプローチで取り入れ、この問いに対峙します。自らの世界観・歴史観・人間観の確立を図るとともに、時代の流れと世界の変容の因子を読み解き、未来を洞察します。

⑤東洋的内省・コーチングを通じた自己との対峙

個としての自立を促し、リーダーとしての行動や挑戦を支えるマインドセットの醸成を図るには、自己との対峙が必要不可欠です。本学では、心理学やコーチング手法をベースとした内省プログラムを随所に配置し、Doing(やり方)を超えて、自身のBeing(あり方)を内観する機会を提供します。

②ビジネス/デザイン/イノベーションスクールの融合

ビジネススクールが伝統的に得意としてきた定量的、論理的、戦略的思考といった事象を検証する力と、デザインスクールが焦点をあてる、人や社会の潜在ニーズ・ウォンツを起点に、事業や地域社会を構想していく力、更には創造的ジャンプを伴うイノベーション思考を融合。変革と創造に挑むプロフェッショナルに不可欠な、構想し検証する力を育みます。

④How だけではなく、絶えず Why・What を問う

ビジネスにとっての利益は、人間にとっての酸素のようなもの。酸素がなくては生きていけませんが、酸素を吸うために生きているわけではない。競争に勝ち、利益をあげるための手段(「How」)を問う表層的なプロフェッショナル教育から決別し、「Why(何故)」「What(何のために)」を同時に考察し追求できる真のプロフェッショナル教育を実践します。

⑥西洋の合理性と東洋の精神土壌を橋渡し

世界の経営学とビジネス教育の根底にはアメリカな価値観の盲目的な受け入れがあると危惧をします。本学は、東洋思想や禅・瞑想を直接カリキュラムに取り入れ、日本とアジアが伝統的に育んできた精神土壌に立脚した、事業、組織、社会、リーダーシップの在り方を追求します。

カリキュラム 概要

修業年限：2年

募集人数：80名(日本人、外国人がほぼ半々を想定)

学 期：1年2学期(秋・春)制

前期(秋学期)：8月20日～1月10日(※冬期休暇：12月下旬～1月10日)

後期(春学期)：1月11日～8月19日(※夏期休暇：7月下旬～8月19日)

授業時間帯：平日夜間(18時30分～21時45分：7-8限)・土曜日(8時45分～19時45分：1-6限)

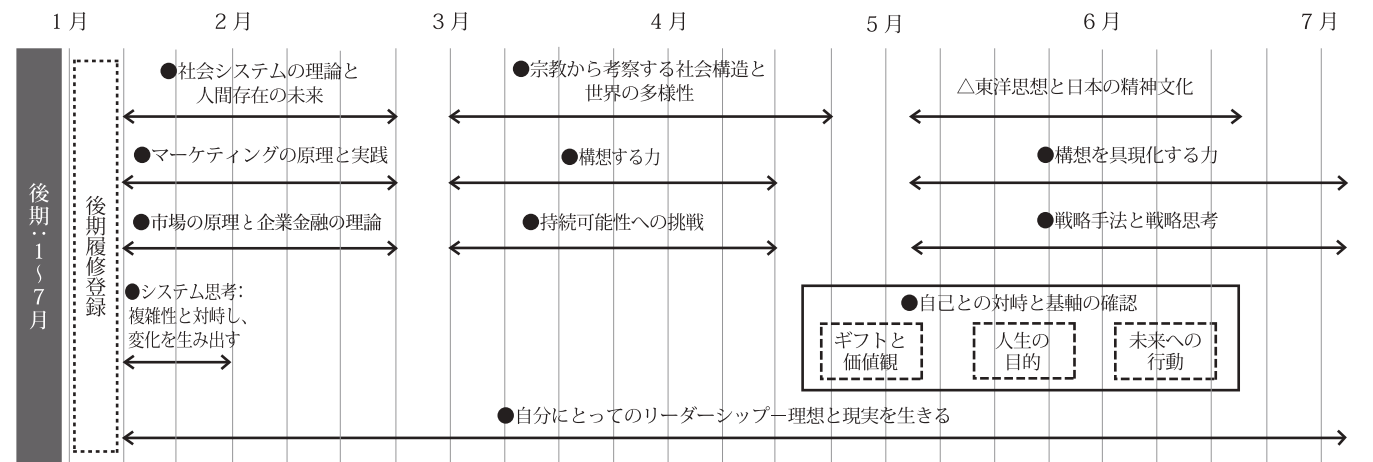
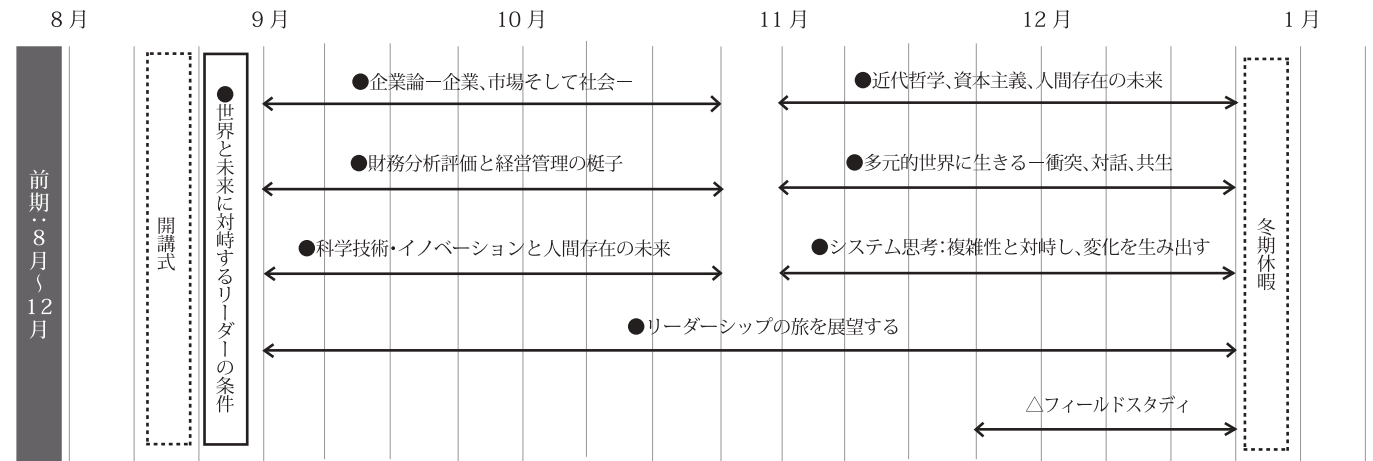
※一部、演習や集中講義等は日曜日にも開講します

履修言語：日本語だけでも、英語だけでも卒業可

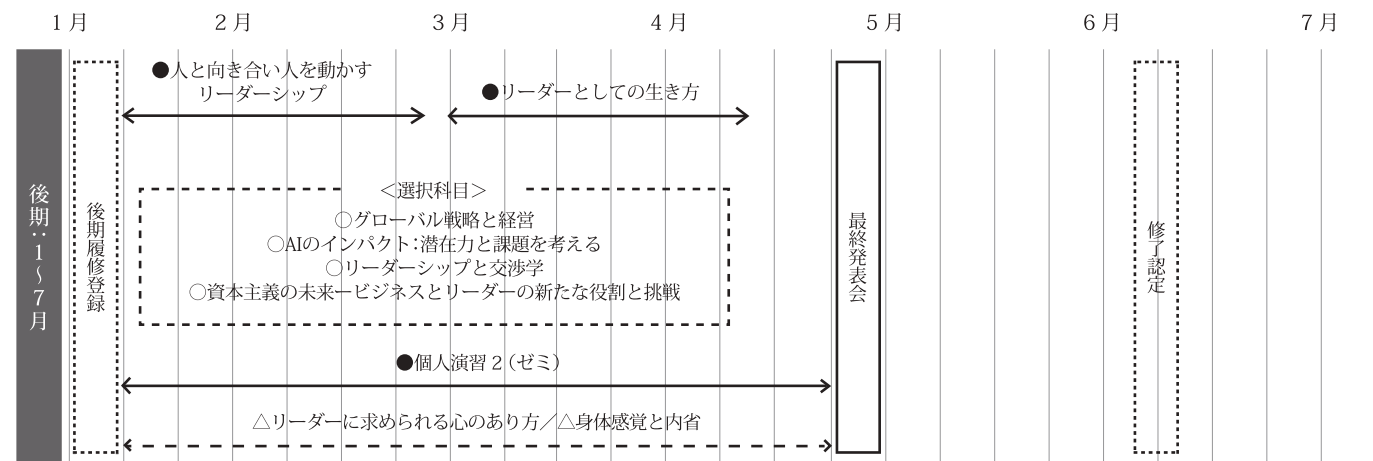
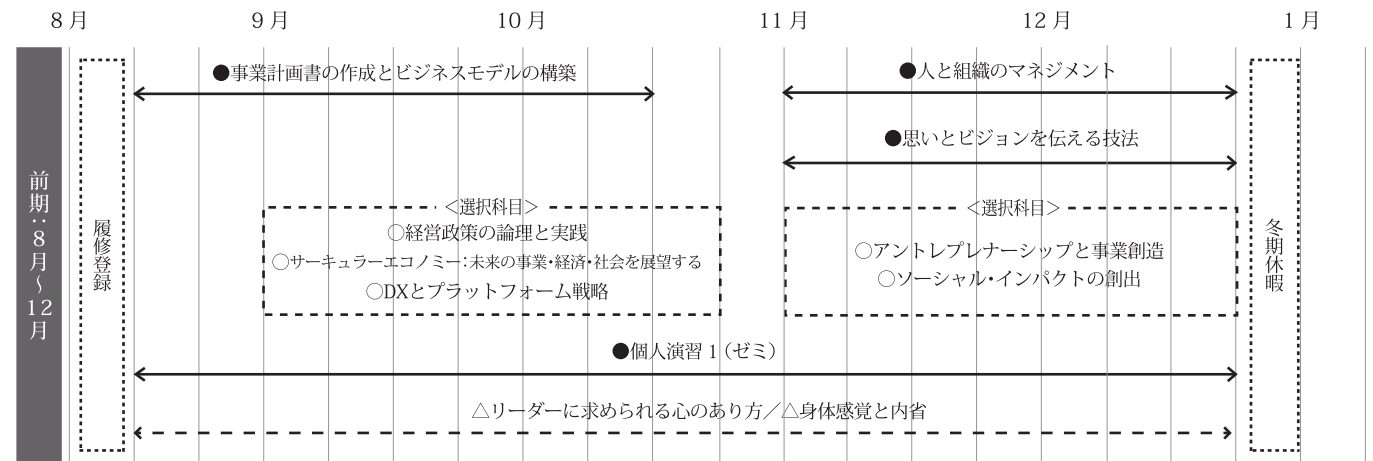
※原則、「日本語」「英語」で同じ科目を提供します。一部、「英語のみ」・「日本語・英語(併用)」の科目があります

学 費：授業料240万円/1年(2年間の授業料合計480万円)、入学金20万円

一年次カリキュラム



二年次カリキュラム



大学院 運営体制

教員組織 *印は学校法人の理事兼任となります

学 長：野田智義*

学術院長：吉川克彦*

副学長：Nalin Advani

鵜尾雅隆

枝廣淳子

大滝精一*

森健太郎

専任教員：宇佐美潤祐

瀬谷啓介

田村次朗

西研

Patrick Newell

Peter David Pedersen 八橋雄一

山本美樹夫

兼任教員：Sapna Masih Advani (C-Suite Executive Coach)

犬塚星司 (コンサルタント、KRMK 代表)

岩崎博論 (武蔵野美術大学 教授)

Wong Lai Yong (Founder&Chief, First Penguin Sdn Bhd)

越智美由紀 (シンクボイス 代表取締役)

北神圭朗 (衆議院議員)

Paul Thurston (CPA、元 EY パートナー)

塩川哲也* (元 Xerox Corporation 在日代表、元富士ゼロックス 監査役)

蘭田綾子 (クレアン 代表取締役会長)

David Lau (早稲田大学大学院経営管理研究科 准教授)

西山茂 (早稲田大学大学院経営管理研究科 教授)

野崎大輔 (マッキンゼー・アンド・カンパニー シニアパートナー)

野呂理 (野呂理事務所 代表)

平井正修 (臨済宗国泰寺派全生庵 住職)

Jeff Volinski (A.T. カーニー パートナー)

三谷宏幸 (元ノバルティスファーマ 代表取締役)

阿部暢仁マッスイミリアーノ (A.T. カーニー シニアパートナー)

石川明 (株式会社インキューバタ 新規事業コンサルタント)

Jesper Koll (マネックスグループ グローバルアンバサダー)

岩永泰典 (アムンディ・ジャパン CRIO)

加藤佑 (ハーチ 代表取締役)

坂野晶 (ゼロ・ウェイト・ジャパン 代表理事)

佐藤克宏 (早稲田大学大学院経営管理研究科 教授)

瀬口清之 (キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹)

Daniel van Wassem (BCG プリンシパル)

長尾俊介 (Eureka Japon CEO、Bower Group Asia 副代表)

根来龍之 (早稲田大学 名誉教授)

野田由美子 (ヴェオリア・ジャパン取締役会長)

橋爪大三郎 (東京科学大学 名誉教授)

平田オリザ (劇作家・演出家、芸術文化観光専門職大学 学長)

松田恵美子 (身体感覚教育研究者)

山根智之 (力の源ホールディングス 代表取締役社長 兼 CEO)

招聘教員：Yih-Teen Lee (Professor of Managing People in Organizations, IESE Business School)

近藤誠一 (元文化庁長官、元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使)

Choelsoon Park (Professor Emeritus & Former Dean, Graduate School of Business, Seoul National University)

長谷川真理子 (人間学者、日本芸術文化振興会理事)

理事会

理事長：野田智義 (ISL 創設者)

常務理事：下條貴弘 (元日本航空株式会社 執行役員)

理事：大石佳能子 (メディアヴァ 代表取締役)

加賀谷順一 (IESE エグゼクティブ教育部門アジア統括 マネジング・ディレクター)

安瀬聖司 (アクサ・ホールディングス・ジャパン 代表取締役社長兼 CEO)

小城武彦 (九州大学ビジネス・スクール教授)

高津尚志 (IMD 北東アジア代表)

水谷智之 (地域・教育魅力化プラットフォーム 理事・会長)

監事：日比野勇志 (野村不動産ホールディングス 執行役員)

谷本昌信 (ユニバーサル・フードマシン 代表取締役、前 ISL 事務局長)

評議員会

議長：呉文繡 (ミライト・ワン 特別参与 ESG エグゼクティブアドバイザー、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 理事)

評議員：磯野 謙 (自然電力 代表取締役)

小沼大地 (クロスフィールズ 代表理事)

鈴木ゆか (大相撲 荒汐部屋 事務局長)

田村次朗 (慶應義塾大学 名誉教授)

土井香苗 (ヒューマン・ライツ・ウォッチ 日本代表)

藤沢 烈 (RCF 代表理事)

宮田拓弥 (Scrum Ventures 創業者兼ジェネラルパートナー)

山田メコミ (アイスタイル 取締役)

上山信一 (ZEN 大学 副学長、慶應義塾大学 名誉教授)

鈴木 寛 (東京大学 / 慶應義塾大学 教授、元文部科学副大臣)

高津伊兵衛 (にんべん 代表取締役社長)

張 麗玲 (大富 代表取締役社長)

平野正雄 (早稲田大学商学学術院 教授)

峰岸真澄 (リカール・ホールディングス 代表取締役会長兼取締役会議長)

村松知幸 (協働日本 代表取締役社長)

吉田浩一郎 (クラウドワークス 代表取締役社長兼 CEO) 他

学術顧問

國領二郎 (早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター研究院 教授)

沼上 幹 (一橋大学 名誉教授)

根来龍之 (早稲田大学 名誉教授)

藤本隆宏 (早稲田大学大学院経営管理研究科 教授、元東京大学大学院経済学研究科 教授、元東京大学ものづくり経営研究センター長)

アドバイザーボード

Anil Sachdev (Founder & CEO, School of Inspired Leadership)

Choelsoon Park (Professor Emeritus & Former Dean, Graduate School of Business, Seoul National University)

Daniel I.Okimoto (Stanford University, Professor Emeritus; Silicon Valley Japan Platform, Co-chairman)

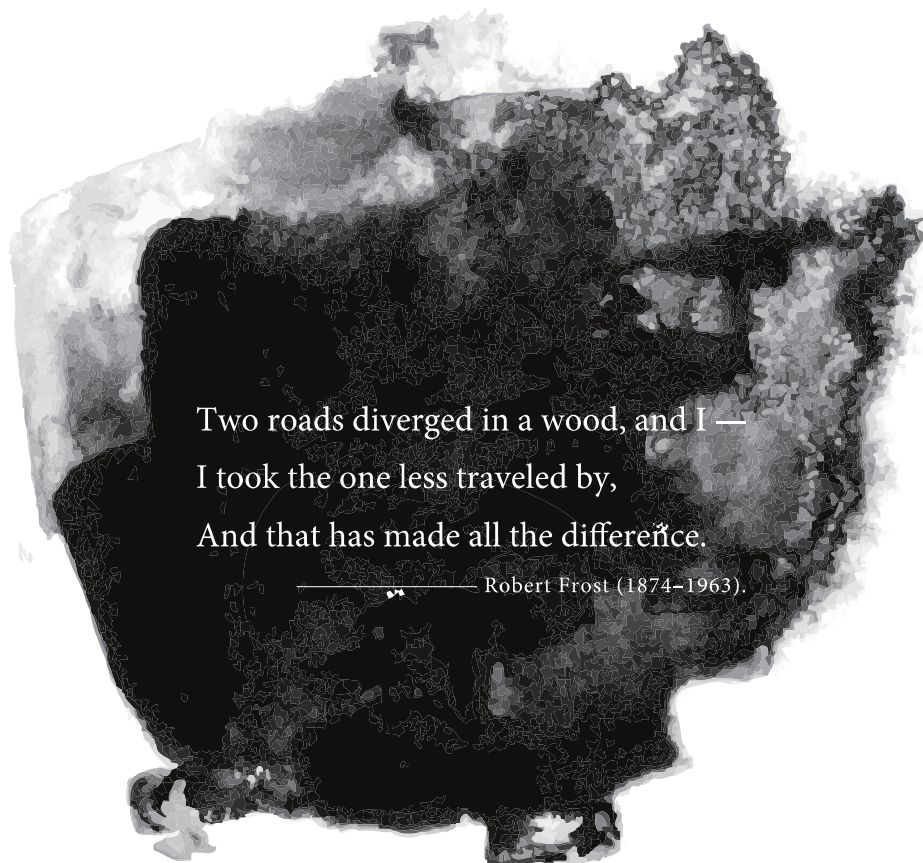
Edson Kondo (Director of the School of Public Policy and Government, FGV)

Philippe Haspeslagh (Professor and Honorary Dean, Vleric Business School)

Yan Hao (Chairman & CEO, EPS Holdings, Inc. / Representative Director, Chinese Chamber of Commerce in Japan [CCCJ])

他

学校法人 運営体制



Two roads diverged in a wood, and I —
I took the one less traveled by,
And that has made all the difference.

Robert Frost (1874–1963).



大学院大学至善館のキャンパスは、地下鉄日本橋駅直結、JR東京駅から徒歩5分の日本橋高島屋S.C.(新館)真上のオフィスフロア17階に位置しています。同階には、パートナーであるNPO法人ISLもスタジオを構え、志とエネルギー溢れる空間を提供します。

日本橋には、数百年の歴史を誇る数多くの長寿企業が存在し、都心にありながらも、地域コミュニティが息づいています。至善館では、地域コミュニティと深く連携し、新しい時代に求められる「グローバル」な教育機関の在り方を実践してゆきます。修士プログラムにおける幾つかのコースワークやワークショップを地域コミュニティと協働で運営するほか、修士プログラムとは別に、リーダー塾、イノベーション・フォーラムなど、地域コミュニティに開かれた短期の教育啓発プログラムも定期開催しています。



至善館の名称は、東アジアにおけるリーダー育成のテキストとなってきた四書五經の一つ、『大学』より由来しています。その経一章には、「大学の道は明德を明らかにするに在り、民を親たにするに在り、至善に止まるに在り」とあります。至善館の名称には、アジアの中核である中国・中華圏と手を携えながら、「22世紀に向けて、世界のリーダーシップ教育・経営教育のあるべき姿を、アジアから実現し発信する」という、至善館のアスピレーションが込められています。

至善館のロゴは、至善館という教育機関が目指す未来を体現しています。黒く塗りつぶされた四角形は西洋の合理性を、そして、墨が形作る曖昧なフォルムはアジアの精神土壌を象徴しており、22世紀に向けて、両者の橋渡しと融合を図らんとする意図を示しています。また、この両者の融合は、全人格リーダーシップ教育こそが、科学技術イノベーションの進化がヒューマニティの持続可能性を担保し続けるために不可欠であるとの至善館の信念とビジョンを現しています。(デザイン: 細川剛)

問い合わせ先

学校法人至善館 / 大学院大学至善館

住所: 〒103-6117 東京都中央区日本橋二丁目5番1号 日本橋高島屋三井ビルディング17階

連絡先: TEL / 03-6281-9011 (代表) E-mail / info@shizenkan.ac.jp